



滋賀陸協広報

一般財団法人 滋賀陸上競技協会

〒520-0037 大津市御陵町4-1 皇子山陸上競技場内2-1室

Tel/fax077-527-3925 <http://srkshiga.com>

「シーズン後半に向けて」

一般財団法人滋賀陸上競技協会
会 長 野 村 昌 弘

中秋の候 皆様におかれましてはますますご清栄のことと存じます。

『令和8年度全国高等学校体育大会 夢へ躍進 青春の夏 近畿総体2026 「つなげ みんなの想い 輝け 近畿の舞台で」』は7月30日～8月5日までの7日間開催され、成功裡の中で終了することができ大変喜んでいところす。

命を守るため、暑さ対策を最優先させた大会でもありました。全国高体連陸上競技専門部、日本陸上競技連盟と共に安全への知恵を絞った大会でもありました。主管をする滋賀陸上競技協会としましても日本陸連科学委員の教示のもと、暑熱対応を実施することができました。また、高校総体としては、歴史に残る「夜間開催」を実施し、暑さ対策だけでなく夏のスポーツの見せ場を創ることができました。

さて、インターハイも終わり、秋本番、次は10月に開催される「青森国スポ」です。昨年滋賀国スポ天皇杯11位を上回るぐらいの勢いで臨んでいただきたいと考えております。

来年は、全国中学校陸上競技選手権大会が平和堂HATOスタジアムで開催されます。全員で大会の準備や大会を盛り上げるための啓発活動を行っていきましょう。皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

「滋賀インターハイ 御礼」

滋賀県高体連陸上競技専門部
専門委員長 八木 佐知男

滋賀インターハイ陸上競技の開催にあたり、多大なるご尽力をいただいた皆様に心より御礼申し上げます。本大会は、初の夜間7日間開催や入場料導入という歴史的な挑戦となりましたが、滋賀陸上競技協会および高体連陸上専門部の競技役員、学生審判の皆様の毅然とした競技運営、そして県実行委員会や競技運営員のご協力により、無事に全日程を終えることができました。深く感謝いたします。

また、夜遅くまで笑顔を絶やさず、大会の円滑な進行を支えてくれた高校生補助員の皆さん、そして彼らを温かく見守り、応援して下さった保護者の皆様の存在は、本大会の大きな原動力でした。皆様の熱意と支えがあったからこそ、全国から集まった選手たちが安全に、最高のパフォーマンスを発揮することができました。

この「滋賀モデル」という新たな一歩は、今後のインターハイの在り方に一石を投じました。皆様との絆と、この素晴らしい成功を誇りに、改めて深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

【強化委員会】

◎湯上剛輝選手・落合晃選手が日本記録更新！！

湯上選手（トヨタ自動車）が、4月26日オクラホマで行われた競技会において、65m38の日本記録を更新しました。昨年の同じ競技会で出した64m48の記録を90cmも上回るビッグスローでした。

大学2年生となった落合選手（駒澤大学）も今シーズン、快進撃を続けています。5月3日に開催された第41回静岡国際陸上競技大会では、男子800mで1分43秒90の日本新記録を樹立。その後、TWOLAPS MIDDLE DISTANCE CIRCUIT 2026では、1分43秒45とさらに日本記録を更新しました。さらに、ダイヤモンドリーグ・モナコ大会では、1000mで2分15秒24の日本記録を樹立。次々と日本記録を塗り替える落合選手の今後のさらなる活躍に、大きな期待が寄せられています。

■第110回日本陸上競技選手権大会 6月12日（金）～14日（日） パロマ瑞穂スタジアム

日本記録保持者・昨年の滋賀国スポの優勝者として臨んだ湯上選手は、接戦の末見事に優勝を果たしました。また、今年に入り100m、200mの両種目で自己記録を更新している壹岐あいこ選手（大阪ガス）が両種目で5位、桐生祥秀選手（日本生命）が100mで3位、瀬古優斗選手（ヤマダホールディングス）が走高跳で2位、佐野拓人選手（びわこ成蹊AC）が砲丸投で7位、藤原孝輝選手（東洋大学）が走幅跳で8位と、各選手が見事な活躍を見せました。

そして、今秋に名古屋で開催されるアジア大会には、落合選手、湯上選手、桐生選手、壹岐選手の4名が日本代表選手として選出されています。滋賀県ゆかりの選手たちはもちろん、日本代表選手の活躍にも大きな期待が高まります。皆さんで応援しましょう！

■青の煌めきあおもり国民スポーツ大会

「青の煌めきあおもり国民スポーツ大会」に向け、チーム滋賀がいよいよ始動しました。

8月11日の理事会において、29名の選手が代表選手として承認されました。この中には、前述のアジア大会日本代表に選出された落合選手、湯上選手、壹岐選手も名を連ねています。また、昨年の滋賀国スポで大活躍を見せた瀬古選手をはじめ、今年に入り自己記録を更新した林拓優選手（HDY ONE）、今年も砲丸投げで入賞を目指す佐野選手など、頼もしい成年選手がそろいました。昨年以上の活躍が期待されます。

少年選手についても、インターハイで活躍した選手が多数選出されています。選手たちは、青森国スポの代表選手に選出されることを目標に日々の練習に取り組んできました。成年選手に負けない、少年選手たちの躍動にもぜひご注目ください。



先月には、第1回目となる強化合宿を開催しました。林選手や壹岐元太選手（西日本三菱）をはじめとする成年選手が、緊張感のある中で追い込んだ練習に取り組む姿に刺激を受け、少年選手たちも負けじと練習に励んでいました。

夜のミーティングでは、強化委員長の村上先生による引き締まった挨拶から始まり、各ブロックに分かれてミーティングを実施。それぞれが国スポに懸ける思いや、今後の練習スケジュールなどを確認し、チームとしての結束を深めました。こうして、第1回目の強化合宿を無事に終えることができました。

毎年、短期間でチームをつくり上げなければならない国スポですが、今回も「チーム滋賀」は着々と形になってきています。

大会は、10月15日から19日まで、新青森県総合運動公園陸上競技場で開催されます。近年よりも気温が低い中での開催が予想されるため、コンディション管理を含め、十分な準備と対策を講じて大会に臨みます。

選手、スタッフが一丸となり、チーム滋賀の力を最大限に発揮して、全力で戦います。

皆さまからの盛大なご声援を、どうぞよろしくお願いいたします。

【普及委員会】

■日清カップ第42回滋賀県小学生陸上競技交流大会】 6月28日（日） 皇子山陸上競技場

510名の小学生が出場し、日頃の練習の成果を発揮しました。

また、今回の結果をもとに、11月22日に新国立競技場で開催される日清カップ全国小学生陸上競技交流大会への滋賀県代表選手が決定しました。

滋賀県を代表して全国大会に挑む選手たちに、皆さまの温かいご声援をよろしくお願いいたします。



男子6年100m	岡本獅恩	甲賀JAC	12秒44 (+0.5)	
男子5年100m	田村優一	FAAS	14秒29 (+1.5)	
男子コンバインドA	高木央生	FAAS	80mH 13秒33 (+0.5)	走高跳 1m25
男子コンバインドB	西田悠誠	びわこRC	走幅跳 3m64 (+0.1)	ジャベ投げ 46m52
女子6年100m	饗場萌生	草津JAC	13秒42 (+1.5)	
女子5年100m	森口ゆめ	レイクスターズ	14秒57 (+1.8)	
女子コンバインドA	角波涼菜	河西陸上	80mH 14秒31 (0.0)	走高跳 1m25
女子コンバインドB	大野萌々	走塾	走幅跳 4m09 (-0.6)	ジャベ投げ 46m57
共通4×100mR	平野彩歩・堤太一 田辺蘭・香水陽向 岩崎羽南・山田湊仁	長浜市陸上	54秒14	

【 マスターズ 】

■滋賀スポーツ・レクレーション祭マスターズ陸上競技大会 5月31日（日） 皇子山陸上競技場

参加者は327名。他府県からも200名を超える参加者が集いました。この日の天気は曇り時々晴れ、最高気温は29.7℃と初夏の陽気の中での開催となりました。今大会も、滋賀陸協や関西学連等々、たくさんの方々に競技役員や補助員を担っていただき、9:30の開会式後も滞りなく大会を運営することができました。また、今大会では競技種目にハードル競技が組み込まれたことで、少し例年とは違った競技日程で行われましたが、選手の皆さんは日頃の練習の成果を発揮され、多くの県新記録や大会新記録が更新されました。加えて、今までチャレンジされることがなかった種目・クラスにもたくさんの大会創設記録が生まれ、活気のある大会となりました。



【 中体連 】

■第75回近畿中学校総合体育大会 8月6日（木）～7日（金） 大阪府万博記念公園陸上競技場

滋賀県勢は、男子4×100mRにおいて、栗津中学チームが優勝を果たしました。府県対抗では男子総合で3位になるなど、優勝こそ1種目でしたが、様々な種目で複数の入賞を果たした結果であり、チーム滋賀としての底上げを感じさせるものとなりました。

■第53回全日本中学校陸上競技選手権大会 8月20日（木）～23日（日）

山口県維新みらいふスタジアム

男子四種競技では双葉中学校の結城大馳選手が2808点（滋賀県歴代2位）で2位入賞、100mでは南郷中学校の北村直樹選手が10"96(0.0)で8位入賞を果たしました。*予選10"83(+1.3)*（滋賀県歴代2位タイ）

また、男子4×100mRでは栗津中学チームがトライアルレースに進出し6位に入るなど、健闘しました。



【 高体連 】

■第 79 回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 7 月 30 日（木）～8 月 5 日（水） 平和堂 HATO スタジアム

今年度の全国インターハイは、地元滋賀県での開催となり、全国から集まった選手たちによる熱戦が繰り広げられました。各種目で全国トップレベルの競技が展開され、好記録も数多く生まれるなど、会場は連日大きな盛り上がりを見せました。

また、今回の大会は全国高校総体の陸上競技大会として史上初となる夜間開催となりました。夕暮れから照明に照らされたスタジアムでは、選手たちの熱戦に大きな声援と拍手が送られ、夜間開催ならではの雰囲気の中で熱い競技が繰り広げられました。

滋賀県からは 13 名の選手が全国大会に臨みました。男女の 400mH では外山圭吾選手、余呉みな子選手（ともに彦根翔西館高校）が決勝に進出し、女子棒高跳では勝間純鈴選手（近江高校）が 5 位入賞を果たしました。地元開催の全国大会において、滋賀県選手も全国の舞台で力を発揮しました。

大会の開催にあたっては、滋賀県内の高校生が補助員として参加したほか、競技役員、運営役員など多くの皆様にご協力いただきました。多くの方々の力が一つになり、地元滋賀県での全国大会を無事に終えることができました。大会運営に携わっていただいたすべての皆様、そして会場で選手たちに温かい声援を送ってくださった皆様に、心より感謝申し上げます。地元滋賀県で開催された今大会で得られた経験を、今後の滋賀県の陸上競技の発展につなげていきたいと思っています。



【編集後記】

暑かった夏が終わりました。昨年の国スポに引き続き、全国高校総体が滋賀で行われ、大盛況のうちに幕を閉じました。来年は、中学校の全国大会が開催されます。国スポから続く全国大会ですが、皆さまのご支援を賜りながら、成功させたいと思います。

また、すでに始まっているアジア大会では、滋賀ゆかりの選手も多数出場されます。シーズン後半も、ご声援の程、よろしくお願いいたします。